

# 私の博物誌

題字 石川進

## 第三十五回 「熱い風・言葉と芸能」

「その日の那覇空港は三二度です」と、機内アナウンスが伝えた通りだった。いわき市とは別の角度からの陽光が心地良い。足裏から這い上がる意味不明の感覚は、暑い気候を好む自分の体の血が滾る証らしい。それは新しい扉を開けるときに似ていた。

早い午後の中、天に在る陽を受けた自身の影の短さにも改めて驚くとともに、緯度の違いをはつきりと認識する。陽気なバスガイドさんは話上手で面白く、日本の古語が現在の本土より多く残っているという。

特に青森県との共通語が顕著だとの話に興味を湧き、耳を澄まして聞いてはいたのだが、その全てが頭から消えていて残念だ。何故青森なのかは知らないが、蝦夷との交易が大きな役割を担ったのだろうと思っただけが残っている。

三泊四日の短い旅が終わりに、往きとは逆のコースを辿って帰って来た。疲れが少しづつ体から抜けてゆくに従って、いつもの

悪い癖が頭を擡げ、膨らんでくる。

郡山市に住む娘に電話をし、沖縄の言葉に関する本を探してくれよう依頼をする。少しの間があつて、言葉に関する出版物は少なく、新刊では探せないとのこと、意外に思ったが仕方がなかった。

「古本で一冊だけあるけど、どうする？」との問いに、即座に欲しいとの返事をする。電光石火、次の日に届いたのにはびっくりした。

中公文庫、沖縄の言葉と歴史、外間守善著とあり、日本語学の学者が執筆したものだが、二〇〇〇年十月二十五日発行と奥付に在るが、既に絶版になっている。

読み進む程に面白く、沖縄の言葉と日本語との関係は難解で、もう少し理解の進んだ段階で、別に記そうとも思っている。

沖縄の歴史や文化については、全く別のルーツから推移した風土があつたことを理解しないと、真の理解には繋がらないように思える。

お互いに二重苦を背負いながら、生き抜くことを天から命ぜられた両県なればこそなのだろうと、私は思う。

琉舞のお二方の妙技には目が釘付けとなり、隣の峰丘画伯の弁では、本土の能と通底するものを感じるとか。紺屋を始祖とし、着物の紋を描くことを専業として生きて来た家系のせいか、爾後は琉球の衣裳、織維、染色などに深い興味をもたずには居られなかった。

獅子舞の敏捷さは、本土よりも中国の影響を強く感じ、エイサーの技はコンクールで優勝の経験もあるとか。

大太鼓、締め太鼓、一枚皮のパランクールの音と体術の中には、空手を編み出した琉球文化の核心を、心の中に深く感じとることができた。



たおやかで凛然とした名手の琉舞 = ギャラリー界限提供



大太鼓と締め太鼓の演技、パーランクーはこの後入る = 同



書いている人

石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員。書法探求顧問。



虎の門病院医師ネットワーク会員

人工透析施設

医療法人 **かもめクリニック**

理事長 金田 浩

**かもめ・みなとみらいクリニック**  
横浜市西区みなとみらい3-6-3MMパークビル3F TEL.045-228-2212

**かもめクリニック**  
いわき市草木台5-8 TEL.0246-28-1010

**かもめ・大津港クリニック**  
北茨城市大津町北町字深田432-1 TEL.0293-46-0133

**かもめ・日立クリニック**  
日立市東滑川町1丁目3186 TEL.0294-25-1531

社団医療法人 至誠会

信頼・友情・愛 そして幸せ

福祉部門

● ころじま慈愛

- 通所リハビリテーション
- 居宅介護支援事業所
- ヘルパーステーション

**ころじま慈愛病院** 〒974-8232 福島県いわき市錦町鈴鹿103-1  
TEL.0246-63-5141 FAX.0246-62-7080

外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、消化器外科、肛門外科

検診 (肺がん・大腸がん・前立腺がん)、健康診断

(一般病床数：30床、療養病床数：90床)

**北茨城クリニック** 〒319-1704 茨城県北茨城市大津町1-4-8  
TEL.0293-46-5101 FAX.0293-46-4279

【診療科目】外科・内科(循環器、呼吸器、消化器)